



Sun A. Kaken

**第106期(平成27年3月期)
第2四半期 決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2014年12月4日

目次

1. 会社概要

- 基本情報
- 事業展開の概要とセグメント
- 各セグメントの概要(軽包装材料・産業資材・機能性材料)

2. 第106期(平成27年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 営業利益の変動要因
- セグメント別の業績
- セグメント別の概況(軽包装材料・産業資材・機能性材料)

3. トピックス

- 新工場建設について

4. 第106期(平成27年3月期)業績見込

- 今期の業績予想(連結)
- セグメント別の施策(軽包装材料・産業資材・機能性材料)
- 設備投資額及び研究開発費等

目 次

1. 会社概要

- 基本情報
- 事業展開の概要とセグメント
- 各セグメントの概要（軽包装材料・産業資材・機能性材料）

会社概要: 基本情報

商 号
証 券 コ ー ド
設 立 者
代 表 者
事 業 所

株式会社 サンエー化研

4234 (JASDAQ スタンダード)

1942年9月 (昭和17年9月)

代表取締役社長 藤岡 宣隆

本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4

営業所 : 大阪、名古屋、静岡

台北 (海外)

工 場 : 静岡、袋井、掛川、奈良

野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 野木工場)

研究所 : 静岡

21億76百万円

高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売

330億24百万円 (平成26年3月期) 154億18百万円 (平成27年3月期-2Q)

12億63百万円 (平成26年3月期) 2億49百万円 (平成27年3月期-2Q)

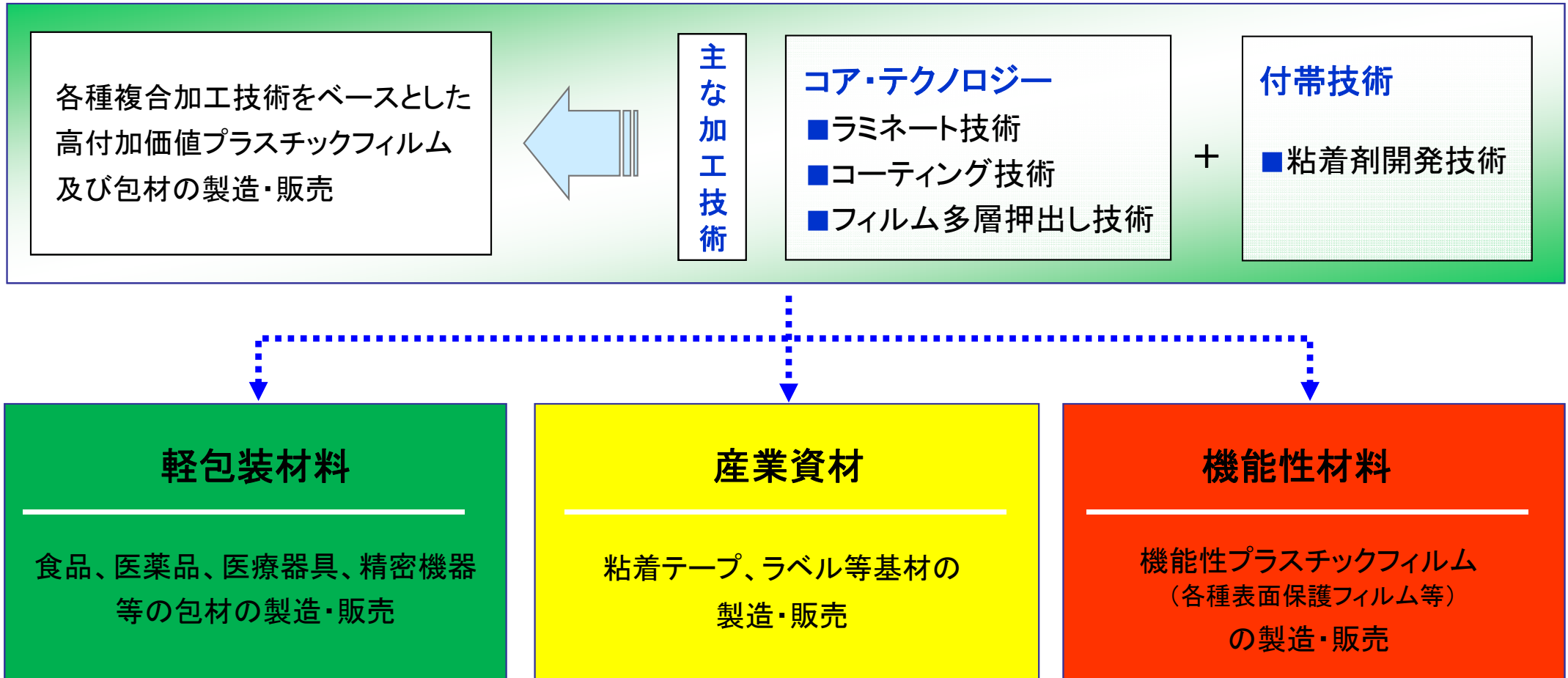
680名 (平成26年9月30日現在)

3月31日

資 本 金
事 業 内 容
連 結 売 上 高
連 結 経 常 利 益
連 結 従 業 員 数
決 算 期

会社概要：事業展開の概要とセグメント

サンエー化研の事業展開



会社概要: 各セグメントの概要 (軽包装材料)

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場 ・ 奈良工場 ・ 野木工場



会社概要: 各セグメントの概要 (軽包装材料)

軽包装材料セグメント (第106期第2四半期売上高 7,160百万円)



食品関連の包材 (売上高 3,216百万円)

主要顧客層

- 食品、飲料メーカー

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 国内市場は成熟、海外市場に期待

課題・戦略

- 「レンジDo！」新タイプの拡販
- FSSC22000取得による受注拡大

医薬品・医療器具の包材 (売上高 1,552百万円)

主要顧客層

- 医薬品、医療器具メーカー

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿性医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

課題・戦略

- 高防湿性PTPシート用フィルム「テクニフィルム」の拡販

精密機器その他の包材 (売上高 2,392百万円)

主要顧客層

- 精密、化学等各種メーカー

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エアー関連製品は競合品少ない

収益性・成長性

- 「エアロテクト」は安定収益に貢献
- 災害時用エアーマットは潜在需要大

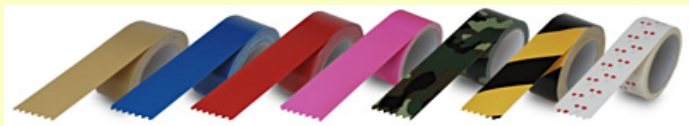
課題・戦略

- エアー緩衝技術を用いた製品開発
- 一般包材のコストダウン

会社概要: 各セグメントの概要 (産業資材)

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

袋井工場 ・ 奈良工場 ・ 野木工場



会社概要: 各セグメントの概要 (産業資材)

産業資材セグメント (第106期第2四半期売上高 3,748百万円)



ラミネート紙

【重包装袋、クラフト粘着テープ基材】
(売上高 903百万円)

主要顧客層

- 重包装袋、テープメーカー

市場規模

- 重包装袋: 約900百万m²/年 (推定)
- テープ用: 約470百万m²/年 (推定)

収益性・成長性

- 市場は飽和状態

課題・戦略

- 設備の統廃合と生産体制再構築
- 安定した受注数量の確保

ラミネート布・布粘着テープ

【梱包テープ基材、養生テープ基材】
(売上高 1,114百万円)

主要顧客層

- テープ、シートメーカー

市場規模

- 約200百万m²/年 (推定)

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

課題・戦略

- 設備の統廃合と生産体制再構築
- 安定した受注数量の確保

剥離紙

【両面粘着テープ、タックラベル】
(売上高 1,731百万円)

主要顧客層

- テープメーカー、電子・化学・自動車関連メーカー

市場規模

- 約2,700百万m²/年 (推定)

収益性・成長性

- 一般用途は収益性低下
- 電材用工程紙は市場拡大見込

課題・戦略

- 電材用工程紙の新規顧客開拓
- 炭素繊維関連部材の早期立ち上げ

会社概要: 各セグメントの概要 (機能性材料)

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム(各種表面保護フィルム等)の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場 ・ 袋井工場 ・ 奈良工場



会社概要: 各セグメントの概要 (機能性材料)

機能性材料セグメント (第106期第2四半期売上高 4,307百万円)



SUNYTECT (ポリオレフィンタイプ) (売上高 1,006百万円)

PAC (2層タイプ) (売上高 791百万円)

SAT (PETタイプ)・粘着加工品 (売上高 2,510百万円)

主要顧客層

- LCD、タッチパネル関連部材メーカー、自動車関連メーカー、建材メーカー

市場規模

- 約300百万m²/年(推定)

収益性・成長性

- タッチパネル市場は今後も成長が期待
- 円安により韓国品との競争は優位に

課題・戦略

- サニテクトNSの新タイプ開発・拡販
- 低コスト品の開発

主要顧客層

- LCD、タッチパネル関連部材メーカー、樹脂板メーカー

市場規模

- 約700百万m²/年(推定)

収益性・成長性

- LCD関連は需要があるが競争厳しい
- 液晶テレビの導光板用は需要減少

課題・戦略

- PAC強粘着タイプの拡販

主要顧客層

- LCD、タッチパネル関連部材メーカー

市場規模

- 約400百万m²/年(推定)

収益性・成長性

- タッチパネル市場は今後も成長が期待
- 高機能ディスプレイ対応品の需要増加

課題・戦略

- タッチパネル部材の進化への対応
- 偏光板用途の低コスト品開発

目 次

2. 第106期(平成27年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 営業利益の変動要因
- セグメント別の業績
- セグメント別の概況(軽包装材料・産業資材・機能性材料)

第106期第2四半期決算概要：連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

科 目	H25年3月期末 （第104期）	H26年3月期末 （第105期）	H27年3月期 （第106期） 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	20,139	20,815	19,528	▲1,287	▲6.2%
現金預金	5,328	6,107	5,221	▲886	▲14.5%
売上債権	11,139	10,932	10,714	▲218	▲2.0%
棚卸資産	3,432	3,531	3,345	▲186	▲5.3%
その他	238	244	246	2	0.8%
固定資産	9,700	9,333	10,300	967	10.4%
有形固定資産	5,939	5,722	5,569	▲153	▲2.7%
無形固定資産	25	22	19	▲3	▲13.6%
投資その他の資産	3,735	3,588	4,711	1,123	31.3%
資産合計	29,840	30,148	29,829	▲319	▲1.1%

第106期第2四半期決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

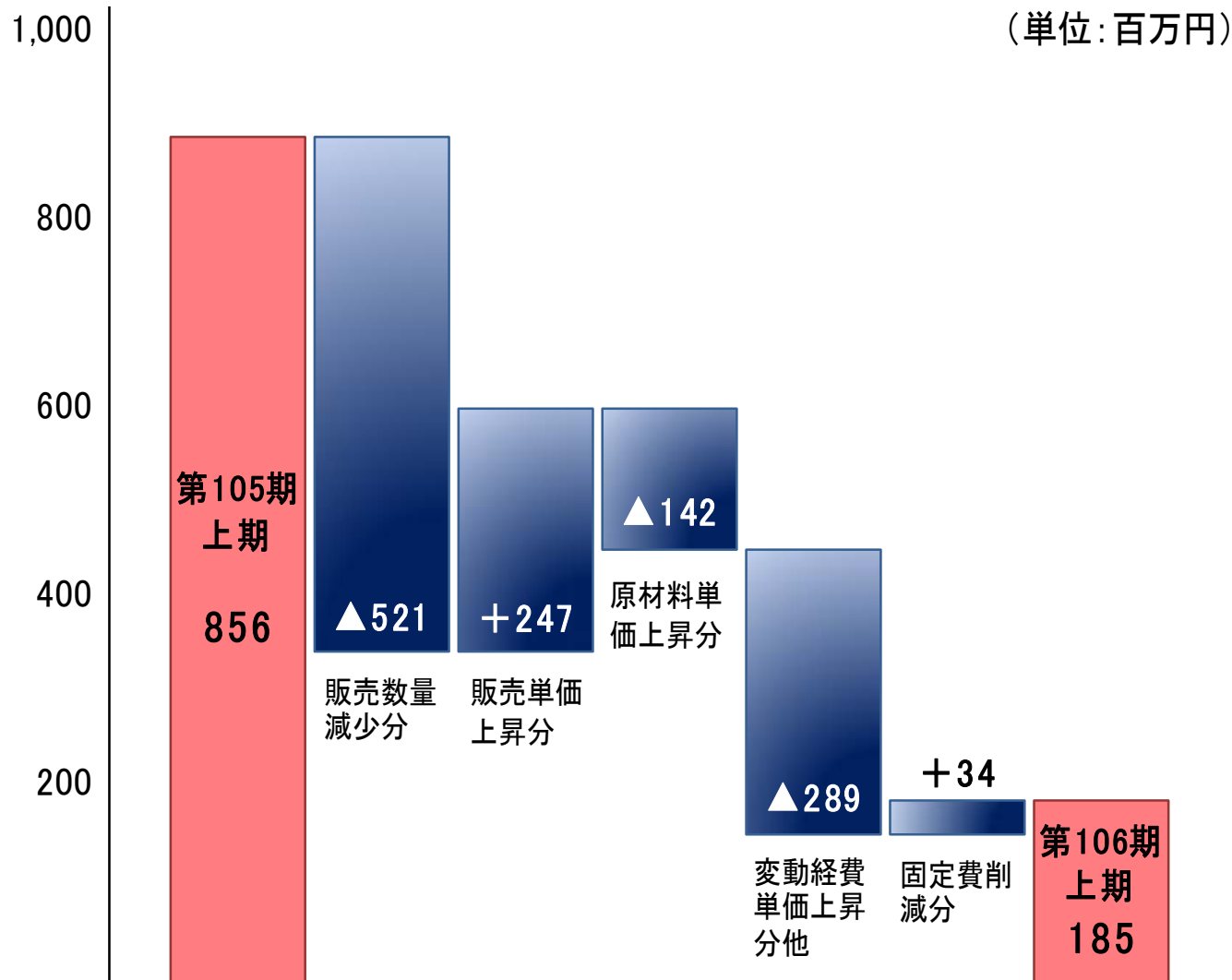
科 目	H25年3月期末 （第104期）	H26年3月期末 （第105期）	H27年3月期 （第106期） 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,335	12,467	11,677	▲790	▲6.3%
仕入債務	6,917	6,808	6,478	▲330	▲4.8%
短期借入金	3,390	3,310	3,340	30	0.9%
その他	2,028	2,349	1,858	▲491	▲20.9%
固定負債	2,442	1,986	1,904	▲82	▲4.1%
長期借入金	991	639	414	▲225	▲35.2%
その他	1,451	1,346	1,490	144	10.7%
負債合計	14,778	14,454	13,582	▲872	▲6.0%
純資産	15,061	15,694	16,247	553	3.5%
負債及び純資産合計	29,840	30,148	29,829	▲319	▲1.1%

第106期第2四半期決算概要：連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	H25年3月期 (第104期) 第2四半期	H26年3月期 (第105期) 第2四半期	H27年3月期 (第106期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	16,070	17,075	15,418	▲1,657	▲9.7%
売上原価	14,225	14,685	13,780	▲905	▲6.2%
売上総利益	1,845	2,390	1,638	▲752	▲31.5%
販管費	1,469	1,534	1,453	▲81	▲5.3%
営業利益	375	856	185	▲671	▲78.4%
営業外収益	128	155	95	▲60	▲38.7%
営業外費用	45	121	31	▲90	▲74.4%
経常利益	459	889	249	▲640	▲72.0%
特別利益	0	0	0	0	—
特別損失	95	64	0	▲64	▲100.0%
税引前当期純利益	363	825	249	▲576	▲69.8%
税金費用他	129	295	68	▲227	▲76.9%
四半期純利益	234	530	181	▲349	▲65.8%

第106期第2四半期決算概要：営業利益の変動要因



第106期第2四半期は、販売数量の落ち込みによって大幅減収となり、その分の原材料費と変動経費の減少を差し引いても数量要因による減益額は5億21百万円となった。

また、原材料費の値上がりの他電力・燃料費、運送費等の変動経費の単価上昇及び新たな外注費の発生等によるコストの増加を販売価格への転嫁や高付加価値品への販売シフトで補い切れず減益幅が拡大した。

その結果、前年同期比で6億71百万円の減益となった。

第106期第2四半期決算概要：セグメント別の業績

(単位：百万円)

科目／セグメント	H25年3月期 (第104期) 第2四半期	H26年3月期 (第105期) 第2四半期	H27年3月期 (第106期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	16,070	17,075	15,418	▲1,657	▲9.7%
軽包装材料	7,233	7,272	7,160	▲112	▲1.5%
産業資材	3,721	3,976	3,748	▲228	▲5.7%
機能性材料	4,917	5,613	4,307	▲1,306	▲23.3%
その他	199	213	202	▲11	▲5.2%
営業利益	375	856	185	▲671	▲78.4%
軽包装材料	154	232	197	▲35	▲15.1%
産業資材	12	2	▲23	▲25	▲1250.0%
機能性材料	182	593	▲4	▲597	▲100.7%
その他	26	27	16	▲11	▲40.7%

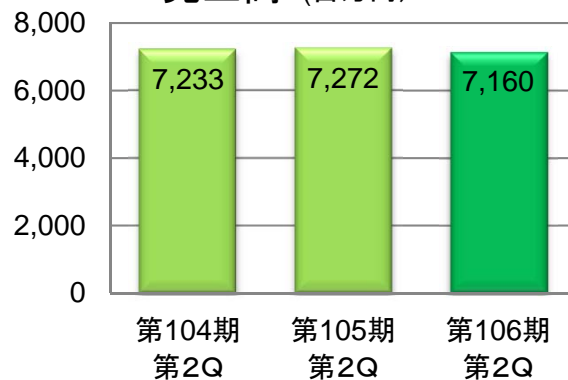
第106期第2四半期決算概要：セグメント別の概況（軽包装材料）

軽包装材料

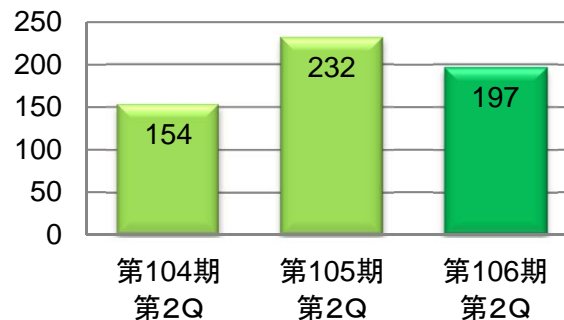
- 売上高： 7,160 百万円（前年同期比 1.5% 減）
- 営業利益： 197 百万円（前年同期比 15.1% 減）

- 電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」は、安定した受注が続き、売上は微増となった。
- 医薬・医療用包材は、全般的に販売が伸び増収となった。
- 清涼飲料用パウチは、夏場の天候不順によって、8月以降、売上は急減した。
- エアー緩衝材は、主力の「エアロテクト」の伸び悩みにより減収、その他の一般包材についても個人消費の落ち込みにより減収となった。
- 「レンジD○！」以外の主力製品の不振により減益。

売上高 (百万円)



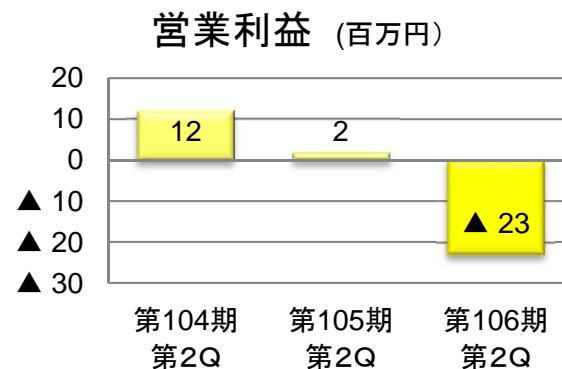
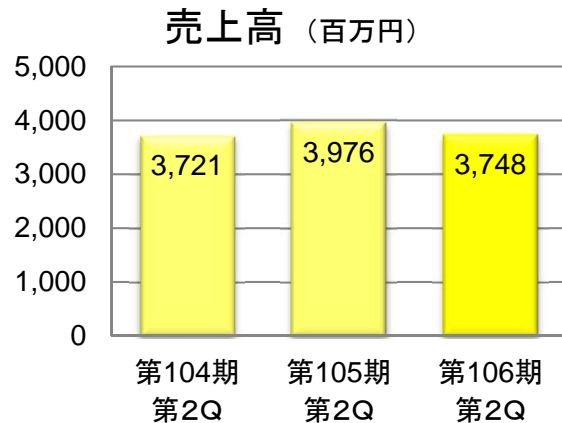
営業利益 (百万円)



第106期第2四半期決算概要：セグメント別の概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 3,748 百万円（前年同期比 5.7% 減）
- 営業利益： ▲23 百万円（前年同期比1250.0% 減）

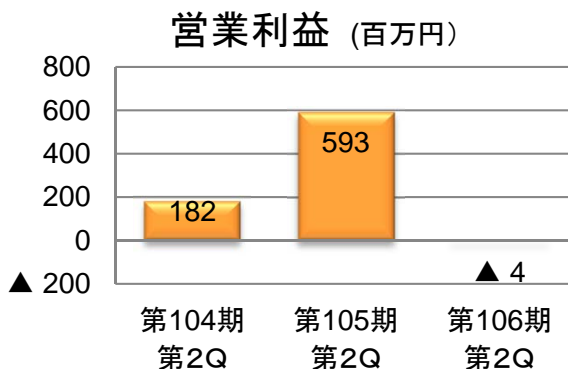
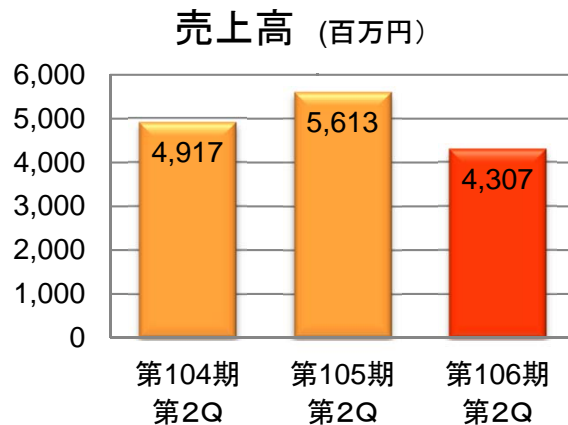


- 消費税増税前のかけ込み需要の反動減により、国内消費が低調となり、全体的に受注が落ち込んだ。
- 布テープ基材については、期初に客先の在庫確保のための受注が増え、増収となったが、テープ用基材全体としては減収であった。
- 剥離紙については、自動車部品用、電子部品固定用が比較的堅調であったが、ラベル用、両面テープ用は消費の低迷により受注減少、電材用工程紙については韓国向けが苦戦し、全体として減収となった。
- 電力、修繕、外注、運送等の経費削減が進まず減益。

第106期第2四半期決算概要：セグメント別の概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 4,307 百万円（前年同期比 23.3% 減）
- 営業利益： ▲4 百万円（前年同期比 100.7% 減）



- 光学用表面保護フィルム全体が競合他社との競争激化と韓国向けの販売不振により、大幅減収となった。
- 特に、「サニテクト」、「PAC」については、光学用途や一般用途における需要の伸び悩みと低価格化によって厳しい状況が続いた。
- 「SAT」については、一部の高付加価値タイプは一定の売上を確保したが、これまで使用されてきた携帯情報端末のモデルチェンジやタッチパネルの部材構成の変化等が重なり減収となった。
- 受注量の減少に伴う工場稼働率低下が響き、大幅減益。

目 次

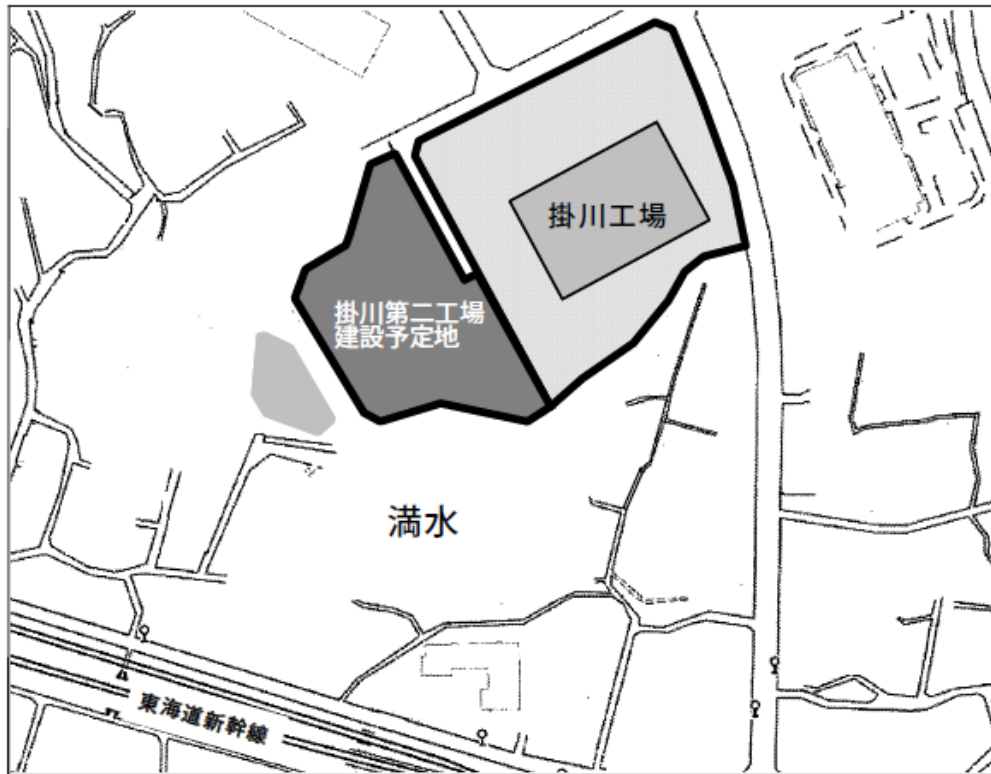
3. トピックス

- 新工場建設について

今後の施策：新工場建設について(1)

■ 名 称	掛川第2工場（仮称）
■ 所在地	静岡県掛川市満水1000-6
■ 敷地面積	約17千㎡
■ 総投資額	約35億円（用地は取得済につき土地代を含まず）
■ 施工期間	平成27年1月～平成28年3月（予定）
■ 導入設備	押出しラミネート機、シリコン塗工機、仕上げ機、樹脂サイロ、脱臭炉、各種付帯設備
■ 生産品目	【産業資材】ラミネート紙、ラミネート布、剥離紙
■ 目 的	① 産業資材製品の収益改善 ② 既存設備の統廃合及び生産体制の再構築 ③ 高付加価値製品の生産・拡販による売上増

今後の施策：新工場建設について(2)



- 立地場所は、掛川市満水工業団地内の掛川工場隣接地。
- 今後、新工場への移管予定銘柄の集約と新規案件の取り込みに注力し、初年度より安定稼働を目指す。

目 次

4. 第106期(平成27年3月期)業績見込

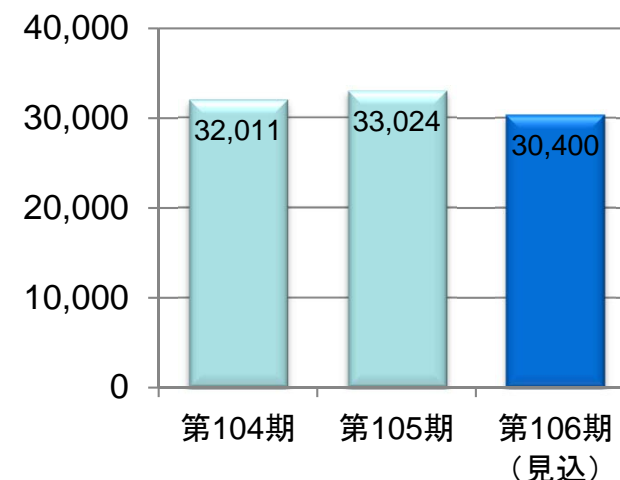
- 今期の業績予想(連結)
- セグメント別の施策(軽包装材料・産業資材・機能性材料)
- 設備投資額及び研究開発費等

第106期業績見込：今期の業績予想（連結）

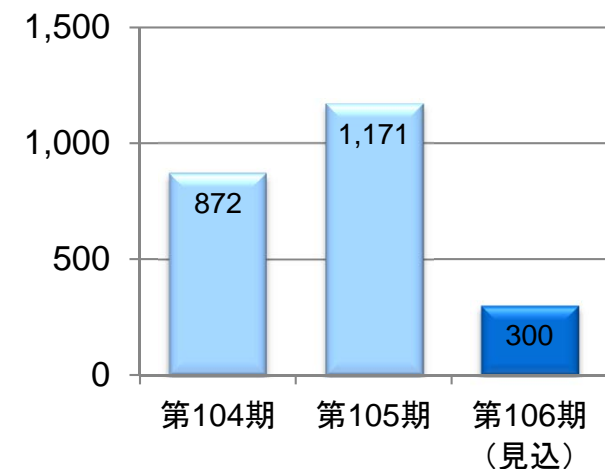
（単位：百万円）

科目／セグメント	H25年3月期 （第104期）	H26年3月期 （第105期）	H27年3月期 （第106期） （見込）	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	32,011	33,024	30,400	▲2,624	▲7.9%
軽包装材料	13,943	14,409	14,200	▲209	▲1.5%
産業資材	7,771	8,112	7,800	▲312	▲3.8%
機能性材料	9,866	10,076	8,000	▲2,076	▲20.6%
その他	429	426	400	▲26	▲6.1%
営業利益	872	1,171	300	▲871	▲74.4%
経常利益	1,043	1,263	410	▲853	▲67.5%
当期純利益	322	832	280	▲552	▲66.3%

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



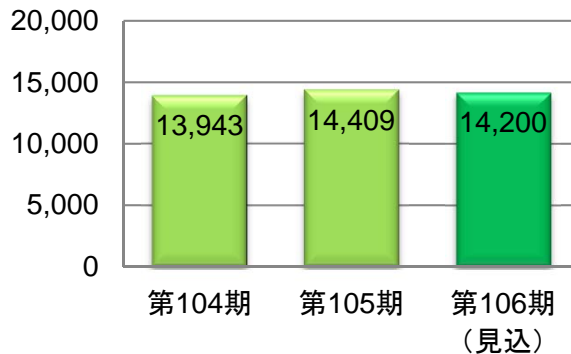
今後の施策：セグメント別の施策（軽包装材料）

軽包装材料

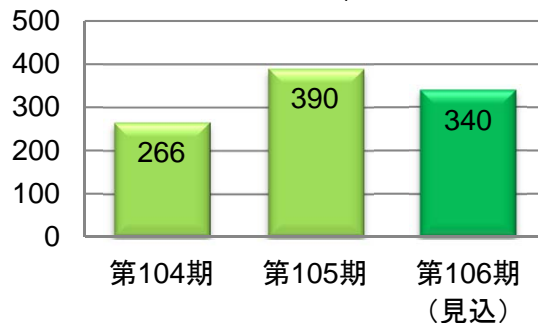
【第106期見込額】

- 売上高：14,200 百万円（前期比 1.5% 減）
- 営業利益：340 百万円（前期比 12.8% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「レンジD^o！」のラインアップ拡充により、新規顧客開拓を図る。
- エアー関連製品の用途開発の推進及び拡販。
- 原材料の海外調達を拡げ、一層のコストダウンを図る。
- 関係先との協業により、新企画の提案、新製品の開発を促進。

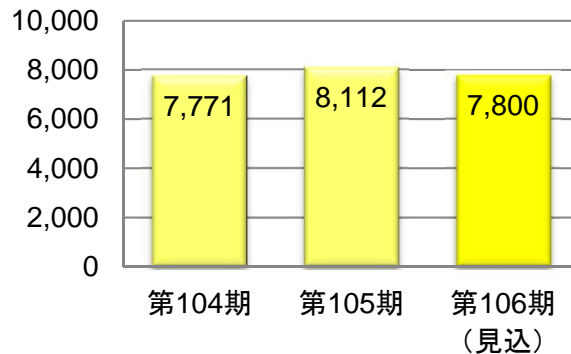
今後の施策：セグメント別の施策（産業資材）

産業資材

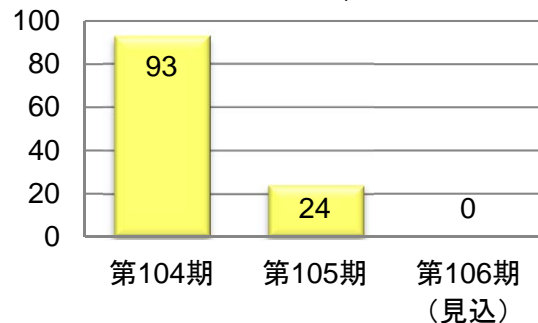
【第106期見込額】

- 売上高： 7,800 百万円 （前期比 3.8% 減）
- 営業利益： 0 百万円 （前期比 100.0% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 新工場の稼働に備え、製品銘柄の集約と業界内のシェアアップ。
- 新工場の円滑な立ち上げと新規案件の取り込みによる加工数量の確保。
- 電材用工程紙の国内・海外の新規顧客開拓。
- 炭素繊維関連部材の早期立ち上げ。

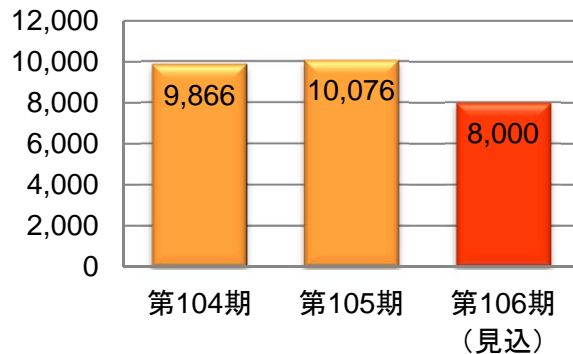
今後の施策：セグメント別の施策（機能性材料）

機能性材料

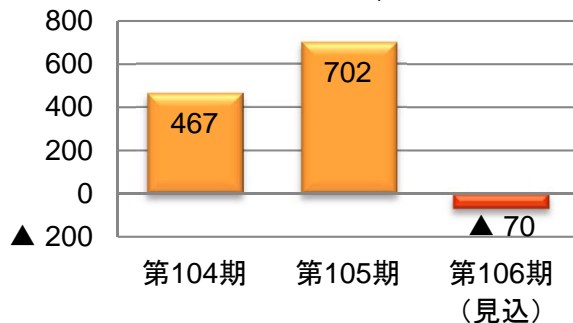
【第106期見込額】

- 売上高： 8,000 百万円（前期比 20.6% 減）
- 営業利益： ▲70 百万円（前期比 110.0% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

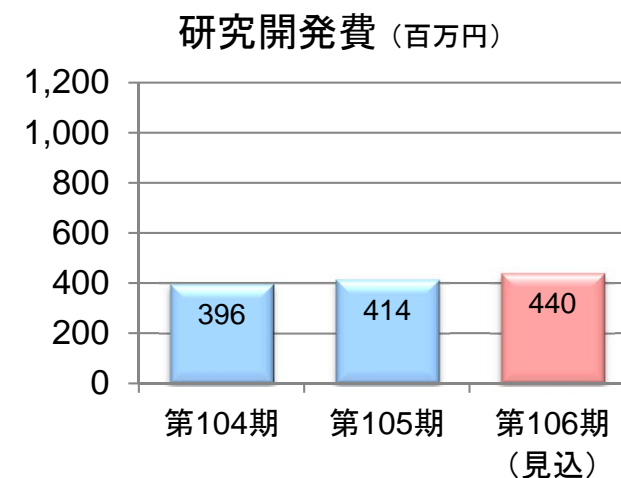
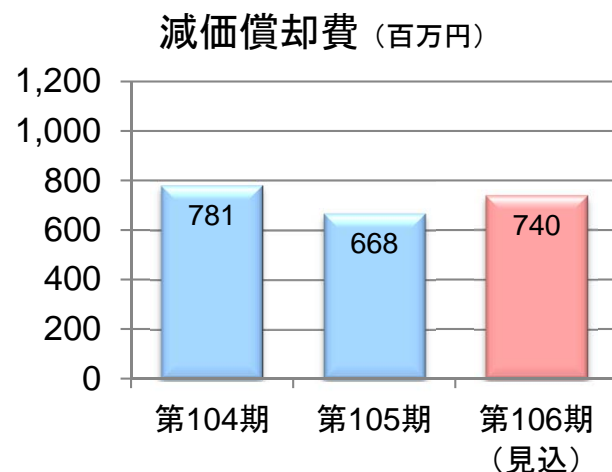
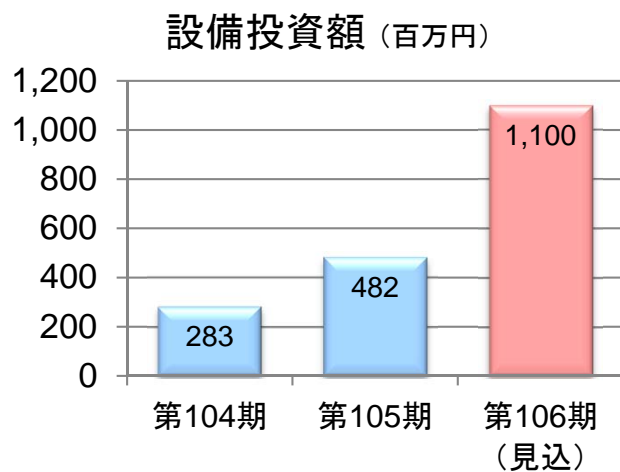


- タッチパネル関連用途については、顧客ニーズの見極めと技術対応の迅速化に努める。
- 液晶テレビ用、建材用などボリュームゾーンへの製品展開を図り、業績変動リスクを低減する。
- 原材料の海外調達と合理化により、価格競争力の向上を図る。

第106期業績見込：設備投資額及び研究開発費等

(単位：百万円)

科目	H25年3月期 (第104期)	H26年3月期 (第105期)	H27年3月期 (第106期) (見込)	備考
設備投資額	283	482	1,100	掛川第二工場建設費、製袋機他
減価償却費	781	668	740	設備投資増額による償却費増
研究開発費	396	414	440	試作費、試験費の増加



業績予想は、本資料の発表日現在(12月4日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp